

おまとめローン・借換え一本化はこう進める

複数のローンを肩代わりして一本化する「おまとめローン」の推進ポイントを解説する。

「おまとめローン」とは、複数の銀行等や消費者金融業者からの借入れ（複数のローン）を、借換えによりまとめて一本化するローン商品である。「おまとめローン」という独立した商品設計とせず、フリーローン等の資金使途を、おまとめ・借換えとして対応している金融機関も多い（以下、「おまとめローン」の表記にはフリーローンによる一本化のケースも含める）。

商品の特徴とメリット・デメリット

一本化で返済負担を軽減する「家計改善」がローンの主目的

借入れの一形態として一般化している住宅ローンの借換え（肩代わり）は、①一つのローンを対象とし、②主に「金利引下げ」による返済負担の軽減を目的としている。これに対し「おまとめローン」は、③他の金融機関も含めた複数のローンを一本化する（まとめ）ことで、④借入本数が多いことに起因する返済負担を「返済期間の調整（長期化）」等によって軽減する——という点が大きな特徴である。

「おまとめローン」のメリットとしては、以下の点が挙げられる。

- ・複数の借入れが一つに集約されることで、月々の返済額に余裕ができる（家計が楽になる）
- ・「おまとめローン」の金利よりも高い金利で借りていたお客様にとっては、金利の引下げと同様の効果がある
- 一方、デメリットとしては、以下の点が挙げられる。
- ・「おまとめローン」によりまとめたローン金額が多額になった場合は、連帯保証人や担保が必要になることがある

図表1 おまとめローンのメリット・デメリット

メリット	複数の借入れを集約（返済期間を長期化）することで、毎月の返済額を軽減できる 既存ローンの金利が高い場合には、金利引下げの効果が期待できる
デメリット	まとめた金額によっては連帯保証人や担保が必要になることもある 消費者金融業者のローンを借り換えた場合には、過払い金返還請求等の機会を失う可能性がある

「おまとめローン」で消費者金融業者の借入れを返済した場合には、利息制限法による引き直し計算が行われない（例えば、長い期間いわゆる「グレーゾーン金利」で取引を継続してきた場合には、減額や過払い金返還請求の機会を失う可能性がある）

近時、多くの金融機関が、個人ローン強化の一環として「おまとめ」

債務や家計状況を踏まえ返済計画を検討する

「おまとめローン」は、「単に複数のローンを一つにまとめればよい」というものではない。⑦お客様（債務者）の債務の状況をすべて把握し、⑧家計（収入・支出）の状況を踏まえた適切な返済計画を提案することを通じ、⑨既存の借入れの返済負担が生活の大きな「足かせ」となっているお客様に生活改善のアドバイスをする——

「おまとめローン」は、「単に複数のローンを一つにまとめればよい」というものではない。⑦お客様（債務者）の債務の状況をすべて把握し、⑧家計（収入・支出）の状況を踏まえた適切な返済計画を提案することを通じ、⑨既存の借入れの返済負担が生活の大きな「足かせ」となっているお客様に生活改善のアドバイスをする——

「おまとめローン」は、「単に複数のローンを一つにまとめればよい」というものではない。⑦お客様（債務者）の債務の状況をすべて把握し、⑧家計（収入・支出）の状況を踏まえた適切な返済計画を提案することを通じ、⑨既存の借入れの返済負担が生活の大きな「足かせ」となっているお客様に生活改善のアドバイスをする——

推進対象とアプローチのポイント

信用リスクに配慮しつつ利用メリットをアピールする



「おまとめローン」のチラシやリーフレット、金融機関のHP等を見たお客様から申し込まれるケース、あるいはお客様から「お宅の銀行では『おまとめローン』を取り扱っていませんか」というような問合せ・相談を受けるケースは

目的別ローンの利用者に他の借入れがないか確認

「ローンをもとめたい」という潜在的なニーズは多いといわれているが、「何かのきっかけがないとなかなか行動（相談や申込み）には移せないというのが実際のところである。そこで「おまとめローン」の増強にあたっては、金融機関側からお客様にアプローチして、潜在的なニーズを掘り起こす（顕在化させる）という推進策が必要になる。

以下、主な推進対象先別に見て

「ローンをもとめたい」という潜在的なニーズは多いといわれているが、「何かのきっかけがないとなかなか行動（相談や申込み）には移せないというのが実際のところである。そこで「おまとめローン」の増強にあたっては、金融機関側からお客様にアプローチして、潜在的なニーズを掘り起こす（顕在化させる）という推進策が必要になる。

以下、主な推進対象先別に見て

①既存の目的別ローン利用先
すでに自庫で自動車ローン、教育ローン、プライダルローン等の目的別ローンを利用しているお客様（特に複数のローン利用先）は、「おまとめローン」の見込先となる。ただし「おまとめローン」の対象は本来、自庫以外のローンであるため、自庫のローン利用先にアプローチする際には「他の金融機関にも借入れがあれば、当行で一つにまとめてみませんか」という提案が必要である。

なお、住宅ローンの利用先も複数のローンがある（可能性がある）という点では見込先となるが、低金利（有担保）の住宅ローンを高金利の「おまとめローン」に借り換えることは考えにくい。住宅ローン以外のローンの有無をヒアリングしたうえで、提案の対象とすべきであろう。

②目的別ローンの新規申込先
新規に自動車ローン、教育ローン等の目的別ローンを申し込まれた場合、通常であれば、申込みを受けたローンについて可否を審査